

## 政治・経済

### 【解答】

I

解答 1	解答 2	解答 3	解答 4
c	e	b	a
解答 5	解答 6	解答 7	解答 8
d	b	a	d

II

解答 A	解答 B	解答 C
国民投票	3分の2	日本銀行
解答 D	解答 E	解答 F
社会保障	炭素	パリ
解答 G	解答 H	
シリア	自己資本	

III

ソーシャルビジネス、BOP ビジネス、フェアトレード、マイクロファイナンス、クォータ制、ジェンダー平等の市民教育、ESG 投資、スマホアプリ、フードロス削減、3010 運動、など

## 【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。2019年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問3題のうち、大問Ⅰが空欄補充問題（記号選択式8問）、大問Ⅱも空欄補充問題（語句記述式8問）、大問Ⅲが200字程度の説明論述式問題（1問）となっている。空欄補充問題は政治・経済両分野の幅広いテーマから出題されているが、2019年度の問題は経済分野からの出題がやや多かった。説明論述式問題は、2018年度と同様に、経済分野から、私たちが直面している課題について問う問題が出題されている。

全体としては基本事項を問う問題で構成されており、教科書レベルの知識を問う標準的な出題である。

以下、大問ごとに内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰの記号選択式の空欄補充問題は、様々な分野をテーマとする問題文が4つ用意されている。各問題文にそれぞれ2つの空欄があり、6つの選択肢から2つの正答となる選択肢を選び出す形式を採っている。問題文の内容は問1と問2が政治分野（人権の国際的保障、最高裁判所・地方自治、各2問ずつ）、問3と問4が経済分野（経済学説、社会保険、各2問ずつ）となっている。

大問Ⅱの語句記述式の空欄補充問題は、様々な分野をテーマとする問題文が4つ用意されており、各問題文にそれぞれ2つの空欄がある。(1)は憲法改正、(2)は日本の財政、(3)は地球温暖化問題、(4)は難民問題や世界金融危機の防止について出題されている。

大問Ⅰ、Ⅱとも基本的な知識を問う問題であるので、取りこぼすことなく、全問完答をめざしてもらいたい。そのためには、まず教科書を繰り返し熟読し、基本的な知識の習得に努めることが必要である。その際、意味の分からない用語が出てきた場合には、用語集で必ず意味を確認するようにしてほしい。なお、2019年度は出題がなかったが、過去の問題では具体的な数値を問う問題が出題されたこともあるので、最新版の資料集を手元に置いておくとよいだろう。知識のインプットが済んだら、問題集を活用して、アウトプットを行ってもらいたい。具体的には、通学時などの細切れの時間に一問一答形式の問題集で知識の確認をしつつ、私立大学の問題を収録した問題集を1～2冊仕上げれば十分である。

大問Ⅲは国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げる目標の実現に向けた取り組みの例とその意義を200字程度で説明する問題である。一般に、論述式の問題は、苦手とする受験生が多く、点差が開きがちである。本学の問題においても、大問Ⅲを攻略できるかどうか合否の鍵を握っていると言えるが、本学の論述式問題は、私たちが直面している課題について問う問題が中心であるので、日頃の学習の中で、新聞等で頻繁に取り上げられている問題や、資料集の巻頭特集や事例研究で扱われているテーマについて、現状や問題の背景、対策などを200字程度でまとめておくとよいだろう。その上で、できれば学校や塾・予備校の先生に添削をしてもらい、記述内容に過不足がないかどうか、チェックしてもらおうとよいだろう。

なお、政治・経済という教科は時事的な話題に最も敏感な教科であるので、日頃から新聞に目を通す習慣をつけておくとよいだろう。また、論述式問題対策としては、時事的な話題の解説と関連用語を見開き2ページでまとめている『朝日キーワード』（朝日新聞出版）の併用を薦める。

最後に、本学の問題は難問・奇問の類はまったくないので、地道に勉強を続けていけば必ず高得点をあげることが可能である。最後まであきらめずに勉強を続け、合格を勝ち取ってもらいたい。